

この問題は、2025 年度修士課程入学試験の専門科目「社会構築論」をイメージするために作成したサンプルであり、実際に出題される問題とは異なります。なお、本サンプル問題では出題の意図・ねらいを掲載していますが、実際に出題される問題には掲載しません。

1. サンプル問題の出題意図・ねらい

修士課程入学試験の専門科目「社会構築論」は、地球的課題や日本社会の抱える課題を歴史を意識して批判的に分析する力、およびそれらを解決する新たな知を創出する力を身につけてきたかを総合的に評価する。

大問1では、社会課題を考える上で重要な基本的キーワードについて解説することを求めている。キーワードに関する基礎的な知識と社会的な背景を理解し、それにまつわる議論を整理する力を評価する。現代的な社会課題に高い関心を持ち、それを学術的な見地から検討するための知識、思考力、表現力を問う。

大問2では、提示された具体的な社会課題に対して、その解決に向けた道すじを提案することを求める。諸課題が発生するにいたる経緯に関する基礎知識、課題の社会的構造を分析する思考力、公正な社会構築に貢献する実現可能なアプローチを見つけ出す発想力を評価する。これまでの専門的な学習に基づき、既存の方法論や問題設定にとらわれず、学際的に社会課題に取り組む姿勢、および社会課題の多面性に関する考察力や判断力を問う。

2. サンプル問題（試験時間：120 分）

大問1. 次のキーワードから2つ選び、それぞれ 800 字程度（または、2つを組み合わせると 1600 字程度）で、キーワードの意味、及びそれに関連する社会課題について解説しなさい。

キーワード：

合理的配慮

消極的平和／積極的平和

人間の安全保障

ポストトゥルース

MDGs／SDGs

ゼロエミッション

生権力

ホワイト・フラジリティ

戦時性暴力

パブリック・ヒストリー

大問2. 以下の課題1・2の中から1つ選び、答えなさい。なお、どちらの課題を選択したかを明確にするために、解答の冒頭部分に **課題1** または **課題2** と明記しなさい。

課題1

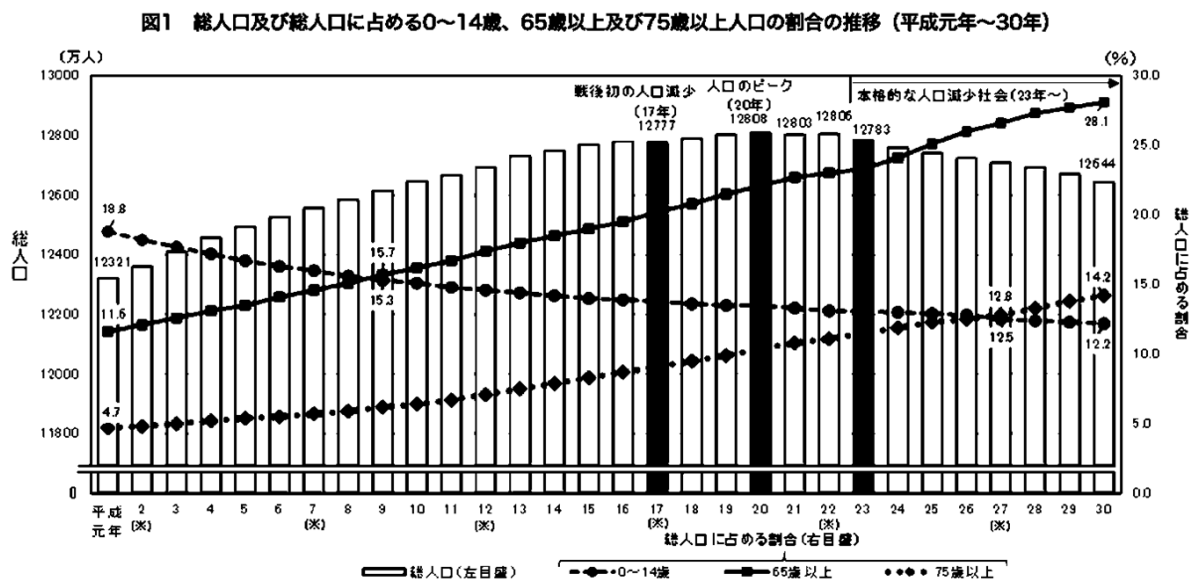
近年、プラスチックによる海洋汚染とその影響が世界的に注目を集め、各国でさまざまな法律が定められてきている。環境省によると、1950年以降に世界で生産されたプラスチックの76%がごみとして廃棄され、うち回収されたプラスチックごみの8割が埋め立て、あるいは海へ投棄されている。2010年の統計では世界192カ国から毎年約800万トンのプラスチックごみが海へ流れ込んでいるとされ、今後対策を取らない場合、2050年には海洋プラスチックごみのほうが魚の総量よりも多くなると予測されている。

2023年のG7広島サミットでは、2040年までに追加的な海洋プラスチック汚染をゼロにすることが合意された。プラスチック容器包装の1人当たり廃棄量において、日本は世界で2番目に多い。使い捨てプラスチックの廃止や強い規制に動いている国々が多い中、日本で2022年に施行された「プラスチック資源循環促進法」は、プラスチックの規制ではなく、事業者・自治体・消費者が協力してプラスチック製品を資源として活用しようとするものだ。

以上をふまえ、使い捨てプラスチック、特にマイクロプラスチックの問題を整理し、その背景や社会的構造、ならびに実現可能な解決策について、日本を念頭に構想せよ。

課題 2

下の図表は、『統計トピックス No.119 統計が語る平成のあゆみ』および『令和 2 年版厚生労働白書—令和時代の社会保障と働き方を考える』に掲載された図表の一部である。多文化共生やダイバーシティ & インクルージョンという観点から、以下の図表から読み取れる社会的な課題を述べよ。その上で、その課題の解決に必要な地域社会や市民社会の取り組みに関連した構想案について述べよ。



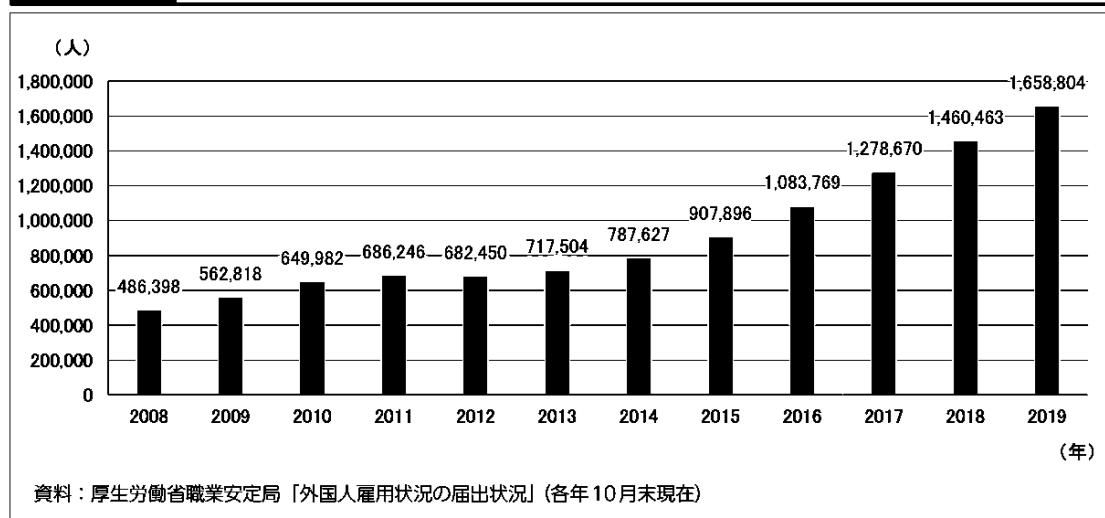
(※) 国勢調査による人口

注) 各年10月1日現在

資料：総務省統計局「国勢調査」、「人口推計」

(出典) 総務省統計局『統計トピックス No.119 統計が語る平成のあゆみ』<https://www.stat.go.jp/data/topics/topi1191.html>

図表 1-1-6 外国人労働者の推移



（出典）厚生労働省『令和２年版厚生労働白書—令和時代の社会保障と働き方を考える』

<https://www.mhlw.go.jp/wp/hakusyo/kousei/19/dl/1-01.pdf>

以上

大問2

——ここから記入すること——

This image shows a single sheet of white paper with horizontal ruling lines. The lines are evenly spaced and run across the width of the page. There are no margins, text, or other markings on the paper.

Blank lined area for writing.

———これより先の余白には絶対に記入しないこと———

——ここから記入すること——